

インフォメーション

問い合わせ：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010 / FAX 022-268-4042 Mail sendai@sapo-sen.jp

開館20周年記念誌ができました!

このたび、開館20周年を記念した冊子「マチノワ 20年のあゆみ」を発行しました。サポセンは、様々な市民活動・ボランティア活動の総合的な支援施設として、1999年6月30日にオープンしました。この20年の間には、施設移転、東日本大震災、サポセン設置に関わる条例改正、改修工事など様々な出来事がありました。時代や情勢に応じて機能を追加させながら市民活動と協働によるまちづくりの拠点としてサービスを提供し続けてきたサポセンの20年を、各サービスから、事業から、年表から振り返りました。また、丸20年の節目である2019年6月30日に開催した2つのシンポジウムのまとめは、仙台の市民活動・市民協働を考える上で参考になる内容です。冊子についてのお問い合わせは、サポセンまで。



緊急企画！お役立てください

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、日々の生活の中で困難を抱えている人も多くいます。行政やNPOによる相談窓口を紹介します。

こころの不安を誰かに話してみませんか?

精神保健福祉総合センター(はあとぼーと仙台)は、こころの健康や精神障がい者の保健福祉に関する相談などの幅広い業務を行う、仙台市の精神保健福祉専門機関です。こころの悩み相談を電話で受け付けている「はあとライン」では、現在、新型コロナウイルス感染拡大で、不安や動揺、イライラ、激しい気分の浮き沈みといった、こころの悩みを感じている方の相談も受け付けています。匿名相談可能。ストレスによる様々な変化に悩んでいる方は、相談してみてもいいかもしれません。はあとライン:022-265-2229 平日10:00~12:00、13:00~16:00(祝日・年末年始を除く) ※多くの方にご利用いただいているため、電話が繋がらないことがあります。ご了承ください。

仕事の悩み、一人で抱えていませんか?

「WorkKafe」は、働く人同士が仕事の悩みや問題について気軽に話せる場をつくっています。互いに悩みを打ち明け共有することで、解決のヒントを考える活動を定期的に行ってきました。現在は、新型コロナウイルスの影響により会社を解雇されたり、休業手当が無かったりして困っている人の力になりたいと、メールでの相談を受け付けています。「職場の悩みを相談できる人が周りにいない」、「弁護士や労働組合よりも気軽に相談できる窓口を探している」。そんな時は、一人で抱え込まず相談してみませんか? HP <http://workafe.nomaki.jp/index.html> Mail workafe219@yahoo.co.jp ※スタッフがボランティアで相談を受け付けているため、すぐに対応できないことがあります。ご了承ください。

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは
様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日	5月13日(水)、27日(水)
開館時間	月曜日～土曜日 9:00-22:00 日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日	毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>
[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>
[ツイッター] @SCSC4CA

「ぱれっと」バックナンバーは
ホームページから
ダウンロードできます。



「ぱれっと」は、市民ライターと協働で制作しています。ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行 仙台市市民活動サポートセンター
(指定管理者：特定非営利活動法人せんだいみやぎNPOセンター)
発行日 2020年5月1日
デザイン PEACE Inc.

ぱれっと 5

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと 2020 No.249

「ぱれっと」には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



仙台をワクワクさせる人物をご紹介します
今月のワクワクビト

東北工業大学 環境サークルたんぼぼ 代表
まつみね よしなり
松峯 快成 さん (21)

人とのつながりを、
活動のやりがいにつなげる

松峯さんは、東北工業大学3年生です。たんぼぼでは、リサイクル推進・ごみ減量啓発活動として、学内でリサイクルごみの回収や、仙台・青葉まつり、せんだい地球フェスタで、ごみを回収・分別するエコステーションを運営。まち美化活動では、月1回、八木山キャンパス周辺のごみ拾いをするなど、地道な活動を続けています。岩手県出身で、豊かな自然に慣れ親しんできた松峯さん。「充実した大学生活にするために、環境問題に取り組んでみよう」と、たんぼぼに参加しました。2018年、たんぼぼは、仙台で社会や地域の課題解決に取り組む若者団体を表彰する「若者アワード」に挑戦。同世代の活動に初めて触れ、刺激を受けました。ここでの出会いを機に、2019年には、仙台の大学生による市民祭りへの誘いが舞い込みました。「自分たちの存在が知られるにつれ、活動への責任も強まった」と松峯さん。サークルの旗や名札を製作し自らの活動を積極的に発信するようになりました。「自分たちの活動から得た充実感を引き継いでいく仲間たちの、やりがいにつなげたい」と熱を込めます。

取材・文 佐々木真理



東北工業大学 環境サークルたんぼぼ

Twitter @環境サークルたんぼぼ
2012年設立。現在は45人のメンバーで活動中。学内外の環境美化活動に加えて、環境学を専門とするサークル顧問とともに、フィールドワークにも出かけています。河川の水質浄化および生物のすみかとなる、ヨシの生育環境を整備するためにヨシ刈りを毎年行ったり、鉱山の開発により、失われてしまった植生を復活させようとする植樹活動を行ったりするなど、環境問題に様々な視点から触れる機会を持っています。

特集

作並が「素敵、素敵すぎて好きです」
一回文を地域の宝物にー

地域の課題を解決するために、様々な立場の人たちがコラボレーションする取り組みをご紹介します

作並が「素敵、素敵すぎて好きです」 一回文を地域の宝物に

作並地域は古くから仙台的奥座敷と称される豊かな温泉が有名ですが、前から読んで後ろから読んで同じ読みになる文章「回文」と深い縁がある地域でもあります。「素敵、素敵すぎて好きです」は、第22回「日本ことば遊び回文コンテスト」で、シンプル文大賞を受賞した作品です。作並を愛する地域の人たちが、回文を活かして作並を盛り上げようという取り組みをご紹介します。

作並地域を盛り上げたい！

仙台・作並回文の里づくり実行委員会



仙台・作並回文の里づくり
実行委員会 委員長
たぞえこういち
田副公一さん



平賀こけし店
ひらがてるゆき
平賀輝幸さん



Laリゾートホテル
グリーングリーン 営業部 主任
なかざわひろひさ
中澤博久さん



展望風呂の宿
湯の原ホテル 相談役
すがわらはじめ
菅原一さん



作並温泉ゆづきSalon一の坊
ゼネラルマネージャー
おのてらひろし
小野寺裕史さん

美しい自然が生み出した、作並と回文の縁

「みな草の名は百としれ葉なりすくれしとは花のさくなみ」。一見ただの和歌のようですが、これは作並の自然の美しさを詠んだ回文です。作者の仙代庵は幕末の仙台に実在した回文師。生涯に1,000作余りの回文をつくり人々を楽しませました。この回文が刻まれた石碑が旧作並街道沿いにあったことや、仙代庵が作並温泉開湯の年に生まれていることにちなみ、作並を「回文の里」として振興する活動が行われています。活動の中心を担うのは作並・新川地区の町内会、旧作並小学校PTAなどで構成される、仙台・作並回文の里づくり実行委員会(以下、実行委員会)です。作並地域の旅館やホテル、企業など力を合わせて活動しています。回文を通じて多くの人に作並や温泉に親しんでもらうために、年1回「日本ことば遊び回文コンテスト」を開催。全国から郵

送形式で応募を受け付けるこのコンテストは、2019年で22回目を迎えました。受賞者には、作並の土産品・作並こけしやニッカウキスキーなどが贈られ、受賞作品は作並の旅館・ホテルのロビーなどに展示されます。コンテストの他にも、回文リーフレットや回文かるたなど様々なグッズを制作。作並温泉ゆづきSalon一の坊では、サロン一角に設置した回文コーナーでグッズを紹介しています。回文かるたは宿泊者に貸出しており、子どもに人気です。ゼネラルマネージャー小野寺裕史さんは「作並と回文のつながりを活かしたまちづくりに、少しでも協力していきたい」と話します。

地域みんなで「回文の里」を伝えていくために

1998年、実行委員会の前身である「作並まちづくり委員会」が作並



回文こけし「こけしげこ」



回文カルタ



第22回 回文コンテスト・交流会



作並橋に建てられた回文碑



旅館、ホテルの回文コーナー

温泉旅館組合(以下、組合)から発足。組合の会長が初代委員長に就任しました。回文を観光客に来てもらうきっかけにしようと、翌年、今も続く回文コンテストを開催。2002年からは郵送形式に加えて「回文コンテスト・交流会」を始めました。当時の交流会は組合の加盟宿が持ち回りで会場を引き受け、1泊2日の日程で「即興回文」や「一夜漬け回文」など回文づくしの企画を実施。日本で唯一の回文大会ということもあり、多い年には70名以上の参加者が全国各地から集まりました。

転機は2014年。旅館やホテルにとって、本業の傍ら活動続けることが徐々に負担になってきたことを受け、実行委員会の主体が組合から地元町内会などへ移ったことでした。それにより旅館やホテルは、無理なく地域活動に関わり続けられるようになりました。また、コンテストが盛り上がる一方で高度な回文が増え、「初心者や地元の人が入りづらくなっていった」と、展望風呂の宿湯の原ホテル相談役の菅原一さんは振り返ります。実行委員会の現委員長である田副公一さんも、「来訪者をもてなすことも良いが、作並の人たちにもっと回文を浸透させていくことが大切と気付いた」と語ります。

この思いを受け、地元の人たちからも活発にアイデアが出るようになり、「回文鍋」や「回文ピザ」といった、「とまと」「いか・貝」など回文になる名

前の材料を入れたレシピが誕生。Laリゾートホテルグリーングリーンが実際に調理しました。交流会で参加者に振舞った当時の様子を振り返り、営業部主任の中澤博久さんは「地元の人と一緒に楽しめた」と笑います。先代から実行委員会メンバーである平賀こけし店の平賀輝幸さんは、作並在住の男性がデザインした回文こけし「こけしげこ」を巧みな技術で製作。「地域の人たちと築いてきた回文の里を伝えていきたい」と話します。

地域の人にも楽しめる回文の普及を目指して

近年は、過去の応募作品を活かす取り組みが進行中です。仙山線の駅名が入った回文や初心者にもやさしい短い回文のリーフレットをはじめ、「そこだ 幸せは明日こそ」などの意味深い回文を使ったおみくじを制作しています。「回文は難しい」と敬遠する人もクスッと笑えるような親しみやすさを込めました。今後も回文を「地域の宝物」として伝え続けます。

(取材・文 小田嶋 くるみ)

●仙台・作並回文の里づくり実行委員会
〒989-3431 仙台市青葉区作並字相ノ沢 27 JR 作並駅構内
TEL 022-395-2052 HP <http://kaibun.mcpu.jp/>



サポセン主催イベントの参加者から「私のあしあと」

市民ライター歴1年半で思うこと

サポセンの「ぱれっと」やローカルWebメディア「TOHOKU360」で、取材記事を書いています。印象深かったのは、「ピースフルヨガ仙台」「ReRoots」といった、東日本大震災の復興支援団体の取材でした。双方とも拠点を仙台市に置き、震災直後から現在まで地域密着型の活動を続けています。東北に住む一人として、今後震災を風化させないためにも、被災地発の震災復興に携わる取り組みを伝え続けていきたいです。



▲ピースフルヨガ仙台の代表に取材する平塚さん(右)

(市民ライター 平塚千絵)



サポセン蔵書から活動に役立つ書籍をご紹介します

ポートランド 世界で一番住みたい街をつくる

「世界で一番住みたい街」と謳われる米国オレゴン州の都市・ポートランドは、自然と調和がとれている一方で経済も発展しており、徒歩20分圏内で生活に必要なものがそろった街づくりが特徴的です。地産地消に励み、同性愛者やボヘミアンなど様々な個性を受け入れる文化を持った都市でもあります。ポートランドの魅力を謎をひも解くことで未来へ持続可能な理想の街づくりのヒントが見えてきます。



著者名 山崎満広 発行者 前田裕資 発行所 株式会社学芸出版社



活動現場から「このたび、カタチになりまして」

宮城・仙台のシニアライフ大百科 「みやぎシニア事典 Vol.5」

仙台の高齢者向けフリーペーパー「みやぎシルバーネット」から別冊「みやぎシニア事典Vol.5」が発行されました。高齢者やその家族に必要な特選情報、地域の支え合い活動の情報や、仙台・宮城の豊富な地元ネタなど、幅広いテーマを取り上げています。今回は特に、認知症について力を入れた内容になっています。

著者・編集:みやぎシルバーネット
出版社:金港堂出版部 TEL 022-397-7682



読者から社会の気になる、あんなこと、こんなことを紹介します。

私の日常アップデート作戦

カバンの中で迷子にならない色づかい。手にとるたびにワクワクさせてくれるポップなデザインのペンケース。出会いは某百貨店の催事でした。米袋を活用していることも、青葉区中山の障がい者施設、多夢多夢舎中山工房で制作されていることもこのとき初めて知りました。ストーリーの見える小物が身近にあると、ちょっと心が豊かになる気がします。

tam tam dot (WEB SHOP)
<http://tamutamu.jp/>
菊地泰子さん(仙台市泉区在住)



▲どこに行くのも一緒の「相棒」です